

2025年11月 (No.437)

主な内容とページ

好調から加熱気味の半導体市況	1
DRAM は突出持続、NAND が続落	2
わが国半導体貿易は輸出好調、輸入低迷	3
AI、供給側、需要側からの分析	4
エヌビディア・TSMC 時代の到来	5
世界半導体企業 42 社、第 3 四半期業績結果	6
高まるエヌビディア比率	6
宣伝・広告活動(SRL だより)	12

好調から加熱気味の半導体市況

世界の半導体市場は AI ブームにけん引されて成長に弾みを付けつつある。

- 足元の半導体市場は世界全体では前年比で 2 割以上の伸び。過熱気味の傾向も出て来た。エヌビディアと TSMC がけん引役で、ワインテル時代からの世代交代が鮮明だ。
- AI ブームの反動、崩壊が懸念されるが、関連した先端半導体の供給上の制約、需要側のデータセンター増強、AI による新市場開拓など今後で、この勢いはしばらく継続しそう。
- 来年は AI ブームの実態が「成長期」「成熟期」「衰退期」など、どのような形態や推移になるか、より明確に方向が出てきそうだ。

宣伝・広告活動

宣伝、広告は会社や個人によって扱い、評価が大きく異なるものだろう。大事とみる向きもあれば、余計なものと全く反対の場合もあり、それは広義には国や地域、社会にも通じるものがある。ふるさと納税は典型的で動画があふれ、その一方で名産品、特産品は「何にもないのが売り」という例もあり、取組の姿勢がよくわかる。

ところで半導体でもTV、新聞、ネットで関連した宣伝が目立つようになってきた。目的は企業の魅力を伝え、人材確保、投資家の注目を引くこと等。半導体は中間素材で直接消費者に結び付くことはほとんどないが、役割、重要性は高まるばかり。宣伝、広告が増えることは大歓迎、産業の発展を後押ししてもらいたい。

とかく話題になる先端半導体プロジェクト「ラピダス」も、この波に乗り「どのように成功するか」、「成功の条件、果実は何か」おおいに喧伝すべきと思う。違う言い方をすれば「失敗する」「落とし穴は何か」の類の指摘も大事だが、より前向き、先をみる議論が大事。そのための宣伝、広告は、余りみられない気がする。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2025 年 版権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2025 年 11 月(毎月 1 回発行)第 36 卷 11 号(通巻 437 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都 小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

© 株式会社 SRL 2025

SRL Monthly Report

November 2025, No.437

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)